

ゆに わーるど

2009/ III
Vol.33

UNIDO ITPO Tokyo



在京大使館向けプログラム
川崎エコタウン視察ツアー
水処理関連技術の紹介
 Bangladesh・ビジネスセミナー
世界の国から ナイジェリア連邦共和国



ナイジェリア・竣工記念式典で舞を披露するダンサー

UNIDO 新所長ご挨拶

本年7月に、国際連合工業開発機関 (UNIDO) 東京投資・技術移転促進事務所代表に就任致しました西川泰蔵です。どうぞ宜しくお願いします。

UNIDOは、地理的にはアフリカ諸国を、産業分野としてはアグリ・インダストリーを重点対象に、そして、環境・エネルギー分野及び中小企業振興を横断

的な重点分野として、開発途上国や市場経済移行国の持続的な経済発展を支援しています。日本は、これらの重点対象・分野に関して多くの技術やノウハウを有しており、その貢献に対して大きな期待が寄せられています。当事務所としては投資・技術移転を通じて、このような期待に積極的に応えることが、途上

国の持続的発展を支援し、ひいては日本の産業発展にも資することになるものと考えています。

皆様のご理解とご支援を得て、所期のミッションを果たせるように頑張る所存ですので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



在京大使館向けプログラム

在京大使館向けに UNIDO 東京事務所が実施した「川崎エコタウン視察ツアー」と「水処理関連技術紹介」プログラムについてご紹介します。

川崎エコタウン視察ツアー

川崎市が来年2月に開催する「川崎国際環境技術展 2010」のプレイベントとして、去る7月29日、在京アフリカ大使館の外交官を対象に川崎エコタウンへの視察ツアーが実施されました。本ツアーの目的は、環境改善に活用可能な日本の環境技術をアフリカ諸国に紹介することです。

川崎エコタウンは日本各地に点在する26のエコタウンの先駆的存在として国内外からの注目度が高く、毎年数千人の視察者が訪れています。

世界的に環境問題が深刻化する中、各国は公害問題を克服した川崎市の環境への取り組みに大きな関心を寄せており、本ツアーへは当初の予想を超え

る、20大使館から21名の外交官が参加しました。

当日は川崎市の担当者から川崎エコタウン構想の策定、その特徴などをご紹介いただいた後、ペットtoペットリサイクル装置、ろ材交換不要水処理装置、自転車搭載型浄水装置、難再生古紙リサイクル技術を視察しました。

これらの技術の中には、すぐにでもアフリカに移転可能と思われる技術もあり、参加者は熱心に説明に聞き入っていました。

環境・エネルギーは UNIDO の活動の大きな柱です。今後も引き続き関連の視察等を企画していく予定です。



排水リサイクル施設(山口)

玖珂公園内の排水リサイクル施設を視察した後、ビジネス交流会に参加。排水処理、水質浄化、海水淡水化等の技術を持つ日本企業9社がそれぞれの水処理技術をアピールした後、企業と大使館との間で約30件の個別ミーティングが行なわれました。

9月18日には、本プログラムに参加した日本企業のうち4社が東京において、ベネズエラのペドロ・モレホン・カリージョ観光大臣とのミーティングに参加しました。カリージョ大臣からは参加企業に対し、ベネズエラが計画中の観光事業に応用できるような技術を是非提案して欲しいとの要請が出されました。



難再生古紙リサイクル技術(川崎)

水処理関連技術の紹介

去る8月5日、広島で、経済産業省中国経済産業局の協力を得て、日本の水処理技術を在京大使館に紹介するプログラムが催されました。当日は14大使館から6名の大使を含む18名の外交官が参加しました。一行は山口県



自転車搭載型浄水装置(川崎)



ビジネス交流会参加者(広島)

from the world
世界の国から

ナイジェリア連邦共和国

Federal Republic of Nigeria



ハッジジャガーナ・ワキル・ムスタファ女史

ナイジェリア投資促進委員会
投資促進部長補佐

Ms. Hajjagana Wakil MUSTAPHA
Assistant Director

Nigerian Investment Promotion Commission (NIPC)



ラティフ・グバデボワレ・サラミ氏

ナイジェリア商工省
中小企業局工業担当次長

Mr. Latifu Gbadebowale Salami
Deputy Director-Industrial

Federal Ministry of Commerce and Industry (FMCI)



首都 アブジャ(1991年ラゴスより遷都)
面積 92.4万平方キロメートル(日本の約2.5倍)
人口 1億4000万人(2007年 UNIFPA)
政体 連邦共和制
元首 ウマル・ムサ・ヤラドゥア大統領
言語 英語(公用語)、各民族語
通貨 ナイラ
日本からの主な進出企業 16社(味の素、住友化学、他)

「経済改革プログラム」を成功させたアフリカ最大の市場

肥沃な土壌に恵まれた世界有数の産油国

ナイジェリアはアフリカ中西部、ギニア湾に面する広大な国土とアフリカ随一の人口を有し「アフリカの巨人」と呼ばれています。英語による教育水準が高く、勤勉で親しみやすく、もてなし上手な国民性が特徴と言えます。今回は、我が国の最新の投資環境やビジネス機会を紹介すると共に、日本の商習慣を学ぶために来日しました。

石油産業からの脱却

これまでのナイジェリア経済は、総歳入の70%を超える豊富な石油資源(OPEC第5位の産出量)に依存してきました。しかしオイルブーム後の経済状況の悪化を受け、現在は石油重視政策からの脱却を目指し、広大で肥沃な土壌から生産される農産物の加工や石油以外の有望な地下資源の開発に力を注ぎ始めています。また、ここ数年は5%台の経済成長率を維持し、民間セクターを原動力に、著しく変貌を遂げています。農産品関連では採油用ゴマや



ラゴス市街風景
(写真提供:『Mr.O-SAMの出張徒然旅雑記』より)

キャッサバなど有望な商品が多い中、加工・保存技術やパッケージなどの付加価値を高めることで国際市場にも対応することが可能であり、大きなビジネスチャンスがあります。また、味の素などがナイジェリア国内市場向けの製品を展開していますが、アフリカ最大の人口を有する市場であることから、今後は自動車の国内での組み立て販売などの分野からも進出が期待されます。

世界経済不況を打破する

グリーンフィールド

海外からの投資を受け入れる環境も整いつつあります。レッキ自由貿易区を始めとする貿易加工区では、インフラも整備されています。現状では電力

ラゴス・ビクトリア島の海岸 (写真提供:高柳 真敏)

が十分とはいえませんが、2009年現在6千メガワットの発電量を2015年までには2万メガワットまで引き上げる予定です。鉄道網や道路の再整備も進み、また国内6か所の国際空港や内陸に港を建設し、外洋と結ぶなど交通インフラの整備にも力を入れています。現在、世界同時不況で国際的に経済が停滞している中、巨大な資源と市場を有するアフリカは、グリーンフィールド(新たな大地)として注目されています。ナイジェリアは2020年までに世界のトップ20に入る経済大国を目指しています。

日本は中国などに比べて投資に慎重な姿勢をとっており、進出も遅れていますが、日本の持つ高い技術力が大きなビジネスチャンスと結びつくことは間違いありません。様々な分野で日本からの投資・技術移転を期待しています。



Bangladesh・ビジネスセミナー

UNIDO 東京事務所は去る6月10日、東京にて、駐日 Bangladesh 大使館、日本・ Bangladesh 経済委員会、三菱東京UFJ銀行、織研新聞社の後援のもと「 Bangladesh・ビジネスセミナー」を開催しました。

■チャイナ・プラスワンの候補として注目

UNIDO 東京事務所大嶋清治前代表の挨拶に続き、在日 Bangladesh 大使館のアブル・マンズール・ファイズラー商務参事官が歓迎挨拶に立ち、 Bangladesh は毎年6%の経済成長を遂げている人口1億5千万人の国で、現在海外からの投資受け入れを最重要課題としており、「ネクスト11」の中で最も発展が期待される国のひとつであると述べました。



アブル・マンズール・ファイズラー氏

続いて、 Bangladesh 投資庁のジャラルル・ハイ外国投資部長が同国の投資環境とビジネス機会についての講演を行い、経済の現状を詳しく解説しました。米、欧、日本などの市場へは、特恵関税が適用となるため、 Bangladesh からの輸出は、ここ10年で3倍以上の伸びを示していることに言及。投資環境としては、現在8か所にある輸出加工区での電気、通信などのインフラを整備すると共に、法人税や原材料等の輸入に係わる免税措置なども講じていると説明しました。特に輸出の76%を占め国内に5000以上の工場がある繊維関係は同国の基幹産業をなしており、ユニクロが進出したことで日本でも非常に注目されていると述べました。また、世界同時不況の影響もほとんどなく、若くて質の高い労働力を供給できることをアピールしました。



ジャラルル・ハイ氏

引き続き、三菱東京UFJ銀行国際業務部海外業務支援室の水野勇調査役が同国の投資環境・現地事情について講演を行いました。



GDPや国際収支面から見た安定した経済成長ぶりを解説し、さらなるコスト削減を求め、海外での生産拠点を中国やベトナムから同国へ移転する動きがあることを紹介しました。日本からの進出企業は、繊維関係をはじめゴルフのシャフトの製造や自動販売機の電子部品など労働集約型の企業が多いと報告、さらに進出のメリット・デメリットについて触れました。豊富で低賃金の労働力があり、英語が通じ、勤勉で手先が器用など労働の質の高さを挙げる一方、雨季には洪水が発生し、電力などインフラ面の整備の遅れやストライキなどのリスクについても言及しました。講演の最後には水野氏自身が撮影した Bangladesh の現在の姿を紹介し、インフラ面でのハードルはあるが競合他社の参入が少ないため、早めの進出でビジネスを独占できるチャンスもあると強調しました。



水野 勇氏

■リスクや国民性の違いを

理解した上での進出を

「 Bangladesh の皮革産業紹介」のビデオ上映があり、続いて、コンフィギュア・トレー

ディング社の富永宗和社長が、個人で現地に出向き7年間ビジネスを展開してきた体験をベースに、同国の実情と日本企業にとってのビジネスチャンスにつ



富永 宗和氏

いて講演しました。ピラミッド型の若い世代が多く、巨大な人口規模のマーケットの可能性に大きな魅力があること、親日的な国民性も日本企業の進出には有利に働くことを強調。その一方で、2009年1月の新政権誕生以降政情は安定しているものの、旧軍事政権下の悪い体質が完全には払拭されておらず、アンダーマネーの横行や官僚の不正などもないとは言いきれないと警告しました。国民性についてもビジネスにはしたたかであり、時間や約束はあまり守られず、責任感も欠如しているなど辛辣な評価をし、商談を行う上での注意点について解説しました。

最後に行なわれた質疑応答では、参加者からの質問が数多く寄せられました。電力事情や通関手続き、洪水のリスクや役人の汚職など具体的な質問に対し、講演者から詳しい説明がなされ、盛会裏にセミナーは終了しました。

